

### 確認、セルフチェックって？

#### \*9月分報告件数

全報告件数は89件、内、一時保存12件、所属長承認は35件、未承認は42件でした。ご協力ありがとうございました。

#### \*経験年数と事故報告件数

先日某学会にてS医大看護部から「ベテラン（経験年数が増える）ほど事故報告数が少ない」という報告がありました。事故報告を提出する基準は、環境や個人、事故レベルの捉え方によっても異なり、それぞれの階層の所属人数でも件数は左右されます。結論として出すには他にもいろいろな要因もあり、「一概には言えない」と思いましたが、実際のところどうなのか？職種経験年数と部署配属期間を全職種の事故報告件数と比較してみました。（下表参照）期間は6月1日～9月30日です。母集団は正規分布しておらず統計解析はしていません。職種経験年数では前述の報告とは一致せず分散している印象ですが、部署配属期間では0～4年目までで230件、5～10年目で84件と全体の91.2%を占め明らかに多くなっています。今後は、なぜ多いのか？職種でわけるとどうなのか？文頭の要因を考慮すると結果は変わるのか？など分析することで、異なる側面での事故対策ができないか？を検討し有用な対策があれば提供していきたいと思えます。

	部署配属期間	職種経験年数
0年	72	25
1年	88	41
2年	43	25
3年	13	12
4年	14	11
5年	29	13
6年	18	16
7年	14	19
8年	13	12
9年	5	15
10年	5	12
11～20年	19	67
21～30年	11	63
30年超	0	13
	344	344
		単位は件数

#### ● 最近の事例から

1. 薬剤ラベルは医師の指示通りでしたが、本体は抗生剤と脳保護薬が取り違えられて薬剤科から払い出され、病棟でもチェックできなかったという事例がありました。投与寸前で発見できたため患者さんへの健康被害はありません。
2. 事例関与者は5名ですがその内1名は発見者ですので、**4名が関与し**、調剤、監査、仕分け、混注、残確、実施と**6回のチェックをスルーしてしまった**こととなります。
3. **電子カルテとラベルは確認していたが、ラベルと本体を確認していなかった**ことが、それぞれの原因となっています。

#### ● 思い込みは防げない！

1. ヒューマンエラーでよく取り上げられる原因に「思い込み」があります。ヒトである以上思い込みを防ぐ方法はありませぬ。ただし、**システムやエラー対策によってコントロール（減少させる）することはできると**されています。
2. 本体とラベルが違っているとは「思ってもみないこと」「正しいと思い込んでいた」とそれぞれの関与者は述べられています。そもそも**確認とは「正しいのが前提ではなく、間違っているかもしれない」と考えて行う作業**とも言われています。

#### ● プロフェッショナル

1. 発見者は陰部洗浄で訪室した際、点滴もチェックし「**この患者さんになぜこの薬剤が？**」と確認したことから発見にいたりました。さらに、同じ薬剤が使われているもう1名の患者さんについても「もしかして？」とチェックし、そちらの取り違えも発見しました。
2. 患者さんの**状態をしっかりと観察し把握している、そして全体も考えて行動**する、まさに**プロフェッショナル**ですね。

#### ● セルフチェックとしての指差し呼称

1. 思い込みを減少させる方法の一つに「**指差し呼称**」があります。見て指して声を出して、その自分の声を聞くことで**一人でも4回のチェックができるとされ、エラーを6分の1に減少できた**との報告もあります。**厚生労働省推奨の方法**は以下の通りです。

- ① 対象をしっかりと見る
  - ② 対象を指で差す：呼称する項目を声に出しながら、右腕を真っ直ぐ伸ばし、対象から目を離さず、人差し指で対象を指差します。
  - ③ 差した指を耳元へ：差した右手を右の耳元まで戻しながら、「本当に良いか（正しいか、合っているか）」反すうし、確かめます。
  - ④ 右手を振り下ろします：確認できたら、「ヨシッ！」と発声しながら、対象に向かって右手を振り下ろします。
2. 院内ラウンドしているとき、既に「**指差し呼称**」を取り入れ実践（確認）している職員もお見かけしました。最初は恥ずかしいかもしれませんが、**安全をあたりまえに提供するのがプロの使命**とすれば、「やらされている”ではなく”自ら進んでやってみる”ことも必要です。大きな声を出さなくても、つぶやき(自身で聞こえる程度)からでも始めましょう！

#### ● 念のためもう一度チェック！誤薬を防止する6R

1. ①正しい患者(Right Patient):ID タグ・フルネーム・生年月日で確認②正しい薬剤(Right Drug)薬剤名・規格③正しい量(Right Dose)ml、mg、単位など④正しい経路(Right Route)末梢・中心静脈などのライン⑤正しい時間(Right Time)日付・時間⑥正しい目的(Right Purpose)何のために使用するか